

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 内灘町立大根布小学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒920-0266
石川県河北郡内灘町大根布6丁目2番地
 E-mail : nebu-es@educet04.plala.or.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 275名 女子 252名 合計 527名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

※本校ではエコスクール推進活動を中心に活動を進めている。

平成25年度エコ活動推進の取り組み

- 目標**
- ・エコ活動を通して、大根布の豊かな環境を守り未来に引き継ごうとする態度を育てる。
 - ・学校でのエコ活動を家庭や地域に生かそうとする態度を育てる。

行動項目・目標

児童	電気エコ	教室にある電気製品は、使うときだけコンセントのスイッチを入れます。
		必要のない教室の照明は消します。(教室に誰もいない時、明るい時、清掃時など)
	紙エコ	教室で出る使用済みの紙は、リサイクルボックスに入れます。
	水エコ	無駄な水は流しません。(手洗いの時、歯みがきの時、手洗い場掃除の時など)
	給食エコ	給食は、残しません。
	学習会	なぜエコ活動が必要なのかを集会などを通して知る。
	その他	グリーンカーテン作り (朝顔・ひょうたん)
教師	電気エコ	不要な電気(照明、事務機器)は、こまめに消します。
		必要のない廊下の照明は消します。(明るい時)
	紙エコ	用紙の両面印刷など、紙使用の減量に努めます。
		職員室で出る使用済みの紙は、分別してリサイクルボックスに入れます。
		再生紙の使用を推進します。
	水エコ	児童同様

具体的な内容

1. 電気エコ

- (1) 目的 学校生活での節電を通して、エコライフの習慣化を図る。
- (2) 方法

①校内共通の節電の取り組みをする。

- ・教室にある電気製品は、使うときだけコンセントのスイッチを入れます。
- ・必要のない教室の照明は消します。(教室に誰もいない時、明るい時、清掃時など)
- ・廊下の照明は、天候などに応じて判断する。

②エコアンケートでふり返る。

③電力消費量のデータをもとに、節電の成果のPRと継続意欲の向上を図る。

- ・エコ委員会が中心となり、データを校内にグラフ掲示及び全校集会等でPRしていく。

③次年度に向けて、データを集積する。

2. 紙エコ

- (1) 目的 学校生活での紙のリサイクルを通して、エコライフの習慣化を図るとともに、ごみの減量化を進める。

(2) 方法

①教室、職員室で出る使用済みの紙は、「リサイクルボックス」に入れる。もう一度使える用紙は、「まだ使えるよボックス」に入れる。

- ②毎日のごみの重さの計量データをもとに、ごみの減量化の成果のPRと継続意欲の向上を図る。
- ③PTAと連携して、5月の資源回収に出す。2、3学期の終わりは、回収業者に出す。
- ④エコアンケートでふり返る。

(3) 紙の分別方法

①教室

A：まだ使えるよボックス＝裏面再利用可能な紙

B：リサイクルボックス＝ちらし、両面使用済みまたは小さいなど裏面再利用可能な紙 ★テープ、ガムテープ、ホッチキスは取る。

②職員室

A：裏面再利用可能な紙

B：新聞紙

C：その他 分別するボックスへ入れる。

3. 水エコ

(1) 目的 学校生活での節水を通して、エコライフの習慣化を図る。

(2) 方法

① 校内共通の節水の取り組みを示す。

- ・手洗い場清掃時の節水の推進、
- ・手洗い時や歯みがき時の節水の推進

②エコアンケートでふり返る。

③水使用量のデータをもとに、節水の成果のPRと継続意欲の向上を図る。

④次年度に向けて、データを集積する。

4. 給食エコ

(1) 目的 食を通して、エコライフの習慣化を図る。

(2) 方法

① 残菜調査を通して、エコライフの習慣化を図る。

② 残菜量のデータをもとに、残量の成果のPRと継続意欲の向上を図る。

③ 次年度に向けて、データを集積する。

5. その他

(1) 保健安全部だよりを通して学校と家庭との協力体制作り

(2) ペットボトルのキャップ集め (PTA活動)

(3) グリーンカーテンを作る

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他 ()